

福山・鞆 課題、実情探る

県職員 3日滞在住民と対話

県の山側トンネル工事などが進められる福山市鞆町でまちづくりの課題や地域の実情を把握するため、県は15日、県職員が町内に3日間滞在し地元住民と意見交換を行う取り組み「ワーケーション@鞆」を始めた。

県地域力創造課の桑原強政策監が鞆町後地のゲストハウス「燧治」に滞在。この日から住民と円卓を囲み、トンネル工事と並行した人口減少対策、観光振興策などについて意見を交わした。

午前中は10人が訪れ、住民から「観光客がリピーターとなるような取り組みも必要」との指摘があった。工事と一体的に行う原地区の沿岸を埋め立て整備する東側交通・交流拠点に飲食場所や水族館を設けるなど「付加価値を付けないといけない」とした。人口減少対策「伝統的な祭りの維持が困難」「働く場所も必要」「空き家問題が深刻」などの意見が出た。



住民から鞆町の課題を聞く桑原政策監（左）

御幸一町内会の灘浜

清光会長(67)は鞆町後地は「トンネル工事と並行して鞆がより良くなるまちづくりが、市内企業の従業員が進めばいい」と願う。桑原政策監は17日また市が地域づくりに役立つ目的で寄付を募る「鞆・一口町方衆」応援プロジェクトを紹介する。(内田博文)

3/18 中国

広島県の「ワーケーション」推進 鞆に職員延べ14人派遣

旅先でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる「ワーケーション」を推進するため、県は17日までの3日間、福山市鞆町に職員延べ14人を派遣した。地元住民や企業と交流しながら仕事場を選ばない働き方を考えた。今後も県内各地で

業務体験を検討するといふ。県地域力創造課の桑原強政策監は、3日間を通して滞在了。築90年の古民家を改修した宿泊施設「燧治」を仕事場に、地元住民や企業と鞆町の活性化について意見交換をした。

参加した鞆町内会連絡協議会の茶谷仁副会長(80)は高齢者の多い地域で、歩道など道路整備の重要性を訴えた。「会議室ではなく、普段着で話せるので意見も出やすくなる」と新しい試みを受け止めた。

桑原政策監は「住民のホームタウンだからこそ、県に何が求められているのかを肌で感じられたのが一番の収穫」と話していた。

(滝尾明日香)



桑原政策監（左から3人目）と意見交換をする地元住民ら